

第 37 号…令和7年7月

# 協会だより



一般社団法人 関東地域づくり協会



## 3 定時総会報告

第13回 定時総会  
理事長あいさつ

## 5 関東地域づくり協会からのお知らせ

新理事紹介／勤続精励職員表彰  
令和6年度 関東地域づくり講演会開催  
利根川水系連合・総合水防演習／地域づくり研究所活動

## 7 社会資本整備に関する話題

令和6年度は関東で「道の駅」が新たに3駅登録

## 8 プロジェクトK③

房総半島と首都圏の  
アクセス向上を支える連絡道  
東京湾横断道路連絡道

## 12 関東の宿場町⑦

日光街道 草加宿 埼玉県

## 14 関東の土木遺産④

荻窪用水と関連施設 神奈川県

## 16 会員のひろば

ホノルルマラソンプロジェクトA200aged ～挑戦～

## 18 関東地域づくり協会からのお知らせ

平成7年度公益事業紹介

## 19 会員情報

新会員紹介・お悔やみ  
編集委員会だより

## 20 ピックアップ 関東の「道の駅」⑧

広大な公園が併設！  
広域防災拠点として一層の充実を目指す  
道の駅「みぶ」

## 表紙の言葉

たかはしのの は

高橋希羽さん（駿台甲府高等学校2年生（受賞時））

## 夏休みの1日

この写真は、当協会が主催する第37回「道のある風景写真コンクール」で高等学校の部金賞に選ばれた、駿台甲府高等学校（受賞時）の高橋希羽さんの作品です。

「この写真は夏休みに山梨県北杜市にある祖父母の家で、従姉妹たちと散歩をしているときに撮りました。夏の青い空に白い雲、青々と茂る稲の中を真っ直ぐ延びる道。私はこの美しい風景が大好きです。そんな中、幼い従姉妹が祖母に向かって一生懸命話しかけている姿が可愛くて思わずカメラを向けました。これからいろいろな場所に出かけ、素敵な写真を撮ってみたいです」





# 第13回 定時総会



令和7年6月17日(火)14時から、大手町サンケイプラザ(東京都千代田区大手町)において令和7年度第13回定時総会が開催されました。

今年は、梅雨の中休みとなる35度を超える猛暑の中、定時総会には会員総数1,247人のうち会場出席者284人、欠席者のうち書面による議決権の行使者が560人、委任状提出者が122人となり、定時総会が開催される運びとなりました。

会の冒頭、深澤理事長によるあいさつのあと、議長および議事録署名人が選出され、議事に入りました。第1号議案の令和6年度事業報告および決算について事務局から説明があり、監事から会計監査報告がされました。続いて第2号議案の役員の選任に関する件が提案されました。後藤専務理事、三町理事および池守理事が退任され、新たに佐藤理事および武藤理事が選任されました。最後に第3号議案の役員報酬等の額に関する件が提案され、3つの議案は全て承認されました。次に令和7年度事業計画および予算について、事務局から報告がありました。また、当協会の会員である佐藤信秋参議院議員からごあいさつをいただき、昨年入会いただいた見坂茂範様から届きました祝電が披露されました。

休憩を挟んで講演会に先がけ、総会にて議決した新役

員による理事会にて、理事長に深澤淳志理事を、専務理事に武藤聡理事を選定したことが報告されました。

その後講演会が行われました。今年は講師として医療法人双寿會理事長、総合内科医の秋津壽男氏をお招きし、「長生きするのはどっち」と題してご講演いただきました。冒頭聴講者の多くが、同世代であるとのこと共感をいただき、大事なことは死なないことではない、最期の瞬間まで元気に過ごし、そのまま穏やかに旅立つこと、元気に生き続け、ある日静かに人生を終えることなど、これからの私たちの生き方、日々の過ごし方に大変参考となる講演であり、聴講者の皆さまからも大変ご好評をいただきました。

講演会終了後の懇談会も、冒頭昨年入会いただいた見坂茂範様からごあいさつをいただき、昨年にも増して多くの参加者が旧交を温めました。会場は人であふれ、立錫の余地なく大盛況のうちに会が終わりました。

今年の定時総会も、会員の皆さまのご理解とご協力により無事に終了することができました。次回も、さらに多くの会員の皆さまにお集まりいただき、盛況な定時総会が開かれることを切に願う次第です。



秋津壽男氏による講演

# 理事長あいさつ

深澤淳志



本日はお忙しい中、関東地域づくり協会第13回定時総会に多くの会員の皆さまのご出席を賜り誠にありがとうございます。うございます。

1月28日、埼玉県八潮市の県道の交差点で大規模な道路陥没事故が発生しました。事故発生以来、復旧に向け建設関係事業者など多くの方々が過酷な環境下で、昼夜を問わず活動されてきました。私たち協会も埼玉県からの要請のもと事業管理業務の一部をお手伝いさせていただきました。一日も早い本格復旧が待たれています。

平成24年、中央道笹子トンネルで天井板落下事故が発生し、以来各種インフラの老朽化対策が本格的に進められてきましたが、今回の事故は私たちに大きな衝撃を与えました。普段使っている道路が突然陥没し車両が転落。その影響は交通や沿道の方々の生活への支障に加え、下水道の利用範囲は広範にわたり、多くの方の生活に重大な支障をきたしています。普段はなかなか人々の意識に上りませんが、道路の下にはさまざまな重要インフラが通っています。

点検・調査の重点化と併せて、このように隠れたインフラの状態をどう監視するか、つまり「見える化」をどう図るかが問われ、そのための技術開発は緊急の課題です。

また、つながって機能するインフラは、一箇所でも支障があるとシステム全体に影響が及びます。事故時の社会的影響が大きいシステムについてのリダンダンシー構築も重要な課題です。

一方で、南海トラフ巨大地震や首都直下地震、富士山の噴火の危険性が高まるとともに、近年、毎年のように発生する大規模な水害等への備えを怠ってはなりません。

そのような状況下、今年は、国土強靱化施策にとって大きな節目の年になりました。6月6日、国土強靱化基本法に基づく「国土強靱化実施中期計画」が閣議決定されました。あとは計画に基づく毎年の予算の確保と事業の実施です。着実な成果が期待されるところです。

国土強靱化の基盤を提供するインフラの整備・管理を担当する関東地方整備局の役割は今後も一層高まると同時に、そのお手伝いの一端を担う当協会の活動への期待も高まっていると考えます。

私たち協会は、主として関東地方整備局での経験をもつ約1,250人の会員により成り立っています。関東地方をよりよくしたいという会員の皆さまの熱い志を実現するため、引き続き協会活動を展開してまいります。

また、会員の皆さまには整備局時代に培った技術力、行政力をそれぞれの立場で発揮し、関東の地域づくりのお手伝いをいただいています。防災エキスパートも会員の半数を超える705人の方の登録をいただいています。

会員有志の方を中心に発足した「関東技術継承研究会」は第2弾として、現在「災害発生時の初期対応事例」の取りまとめを進めています。このような取り組みを通じて関東地方整備局OBが現役時代に経験した教訓を後輩に確実に継承していくことも私たちの使命であり、誇りではないでしょうか。

これからも引き続き、会員それぞれの立場で、協会活動へのご指導ならびにご参加をいただきたいと思います。

本日は、令和6年度の事業報告および決算、役員改選についてご審議いただきます。令和6年度の業務につきましては、事業計画に則り、公益事業、収益事業とも順調に遂行できたと考えております。これもひとえに会員の皆さまのご協力と職員の努力によるものです。心より感謝申し上げます。

今年度も業務の一層の効率化、技術の研鑽、人材の確保・育成に努めるとともに、協会活動の充実を図ってまいりたいと考えます。

会員の皆さまの一層のご指導、ご協力をお願いいたしますとともに、皆さまの益々のご発展、ご健勝を祈念いたしましてごあいさついたします。



## 新理事紹介

下記の方々が新役員に就任しました。どうぞよろしくお願いいたします。



理事 さとう りょういち  
佐藤 亮一



理事 むとう さとし  
武藤 聡

なお、この度退任されます後藤理事(在任期間11年)、池守理事(在任期間11年)、三町理事(弘済会を含め在任期間18年)におかれましては、当協会発展のため長きにわたりご尽力いただきました。ありがとうございました。

## 勤続精励職員表彰

令和7年7月2日(水)、関東地域づくり協会表彰規程に基づいた勤続精励表彰式が本部会議室において執り行われました。

今年度は、業務企画部所属の和田智志専門役と綿貫守技術主任が勤続30年、用地課所属の奥山誠技術主任、総務課所属高橋明子嘱託職員と業務企画部所属の助川純一郎嘱託職員が勤続20年でそれぞれ表彰されました。

深澤理事長をはじめとする役員立ち会いのもと、表彰状と記念品が手渡され、受賞者たちは緊張した面持ちで受け取りました。

理事長からは、弘済会から協会へ移行した今日までの協会業務への取り組みに対する御礼とともに、これまでの出会いに感謝する気持ちの大切さ、今後も引き続き健康に留意して活躍してもらいたい旨の言葉が贈られました。



写真／前列左から  
綿貫技術主任  
深澤理事長  
和田専門役

写真／後列左から  
井出理事  
奥山技術主任  
高橋嘱託職員  
助川嘱託職員  
武藤専務理事

## 令和6年度 関東地域づくり講演会

# 「令和6年 能登半島地震の被害と対応について」を開催しました

関東地域づくり  
講演会の様子



令和7年2月12日(水)、埼玉県さいたま市のソニックシティ小ホールにて、当協会主催、国土交通省関東地方整備局の後援により関東地域づくり講演会「令和6年 能登半島地震の被害と対応について」を開催。約260人にご参加いただきました。

講師には、中込淳氏((一財)水源地環境センター審議役)と川村國夫氏(金沢工業大学地域防災環境科学研究所特任教授)をお招きし、中込氏は「令和6年能登半島

地震における政府の対応」、川村氏は「令和6年1月1日能登半島地震と9月21日奥能登豪雨との二重災害の特徴」と題してご講演いただきました。昨年1月1日に発生した「令和6年 能登半島地震」の被害の甚大さを再認識する内容であり、頻発・激甚化する自然災害、近い将来発生が危惧される巨大地震に、関東地域としてどう備えるかを検討するための一助になったものと思います。

参加者アンケートでは「災害対応の現場での具体的な取り組みや課題を理解する上で、両講演とも大変参考になった」など多数の感想をいただきました。

協会Webサイトに「講演会の記録」を掲載しましたのでご覧ください(<https://www.kan-koueki.net/seminar/>)。



左:中込淳氏((一財)水源地環境センター審議役)

右:川村國夫氏(金沢工業大学地域防災環境科学研究所特任教授)

## 第73回 利根川水系連合・総合水防演習 展示・体験コーナーに出展

5月17日(土)、国土交通省および関東1都6県(茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県)、ならびに開催地である宇都宮市の主催により、第73回利根川水系連合・総合水防演習が栃木県宇都宮市道場宿地先(鬼怒川左岸78km付近)で開催されました。

当協会はパネル展示「関東地域づくり協会の取り組み」と、防災エキスパートの協力による「なわ結び体験コーナー」や水防工法展示場での水防工法の説明を行いました。

当日はあいにくの悪天候でしたが、報道によれば演習参加者・観覧者含め約5,000人が来場したとのこと。当協会の体験コーナーにも雨の中、家族連れなど大勢の人々が訪れ、なわ結びを体験しました。



なわ結び体験コーナー



水防工法を説明する防災エキスパート

## 地域づくり研究所活動

当協会では、平成26年に、地域の人々を対象とした防災や社会資本に関する啓発活動や防災体験学習施設に来館する子供たちを対象とした防災講座などの活動を行う「地域づくり研究所」を設置しており、現在も理事長から委嘱を受けた7人の客員研究員を中心に活動しています。

令和6年度は、東京臨海広域防災公園内の防災体験学習施設「そなエリア東京」に来館した25校の小・中学生を対象に、主に地震に対する防災講座を行い、延べ約1,600人の児童・生徒が受講しました。今年度も引き続き「そなエリア東京」での防災講座を中心に活動しています。



「そなエリア東京」での  
防災講座の様子





## 令和6年度は関東で「道の駅」が新たに3駅登録 —— 関東地方整備局管内では189駅に

関東地方整備局管内では、令和6年8月7日付けで新たに2駅が登録、令和7年1月31日付けで新たに1駅が登録され、合計で189駅(全国1,230駅)となりました。

新たに登録された駅は、道の駅「べに花の郷おけがわ」(埼玉県桶川市川田谷)で埼玉県内において21駅目、道の駅「にしじま和紙の里かみすきパーク」(山梨県南巨摩郡身延町西嶋)で、山梨県内においては22駅目、道の駅「湘南ちがさき」(神奈川県茅ヶ崎市柳島)で神奈川県内において5駅目の「道の駅」となります。

### 関東地方整備局管内 189 駅の内訳

|          |          |
|----------|----------|
| 茨城県：16 駅 | 栃木県：25 駅 |
| 群馬県：33 駅 | 埼玉県：21 駅 |
| 千葉県：30 駅 | 東京都：1 駅  |
| 神奈川県：5 駅 | 山梨県：22 駅 |
| 長野県：36 駅 |          |



「道の駅」は、平成5年の制度創設以来、令和6年で31年が経過し、国土交通省では、新たに加わった「道の駅」とともに、地方創生・観光を加速する拠点への進化を目指す第3ステージの取り組みが進められています。

### ○道の駅「べに花の郷おけがわ」 令和7年3月27日オープン

- ◆ 路線名：一般国道17号上尾道路
- ◆ 所在地：埼玉県桶川市川田谷4324番地の1
- ◆ 面積および施設等
  - ・ 面積：29,672㎡
  - ・ 施設：駐車場237台、トイレ57器、情報提供施設、休憩施設、観光案内所、ベビーコーナー、非常用電源、備蓄倉庫、貯水槽、マンホールトイレ、公衆電話、公衆無線LAN、物販施設、飲食施設、イベントスペース(大屋根広場)、イベント広場、展望台、ドッグラン、バス停留所、EV充電施設



「べに花の郷おけがわ」イメージパース

### ○道の駅「にしじま和紙の里かみすきパーク」 令和7年4月18日オープン

- ◆ 路線名：町道西島・岩間線
- ◆ 所在地：山梨県南巨摩郡身延町西嶋345番地
- ◆ 面積および施設等
  - ・ 面積：16,427㎡
  - ・ 施設：駐車場135台、トイレ37器、情報提供施設、休憩施設、観光案内所、ベビーコーナー、備蓄倉庫、マンホールトイレ、公衆無線LAN、物販施設、飲食施設、キッズスペース、和紙漉き体験工房、展示展示施設、イベント広場、公園(屋外複合遊具)、バス停留所、RVパーク、EV充電施設



「にしじま和紙の里かみすきパーク」イメージパース

### ○道の駅「湘南ちがさき」 令和7年7月7日オープン

- ◆ 路線名：一般国道134号
- ◆ 所在地：神奈川県茅ヶ崎市柳島向河原1546番地1
- ◆ 面積および施設等
  - ・ 面積：14,970㎡
  - ・ 施設：駐車場188台、トイレ59器、情報提供施設、休憩施設、観光案内所、ベビーコーナー、非常用電源、備蓄倉庫、貯水槽、公衆無線LAN、物販施設、飲食施設、キッズスペース、多目的スペース、加工室、交流広場、ドッグラン、EV充電施設



「湘南ちがさき」イメージパース

記事・写真：国土交通省関東地方整備局Webサイトより



# 房総半島と首都圏の アクセス向上を支える連絡道

## 東京湾横断道路連絡道



会員の方々に携わったプロジェクトの地を再訪していただき、  
苦労や喜び、エピソードさらには事業全体の効果などを語っていただく本シリーズ。  
第53回は、東京湾横断道路連絡道建設に携わった寺本邦一さん、  
梶原竹生さん、戸倉健司さんと現地を訪ねました。



### 寺本邦一さん

昭和44年入省。関東地方整備局地方事業評価管理官、北陸地方整備局建政部長、東北地方整備局道路部長を経て平成19年退職。



### 梶原竹生さん

中央復建コンサルタンツ株式会社東京本社理事。昭和48年入省。横浜国道事務所副所長を経て平成27年退職。



### 戸倉健司さん

株式会社奥村組東京支店技術部長。昭和54年入省。宇都宮国道事務所長、道路情報管理官を経て平成28年退職。





## ①② 東京湾横断道路連絡道建設前と、完成後の様子

(写真①②④⑦⑨⑩は、建設省千葉国道工事事務所『東京湾アクアライン連絡道建設の記録』より)



## ③ 30年前の思い出を語る3人

### 東京湾アクアライン開通に間に合わせる！ 急がれた連絡道建設

東京湾横断道路、通称「東京湾アクアライン」は平成9（1997）年12月に開通した。神奈川県川崎市と千葉県木更津市を海底トンネルと橋梁で結ぶ約15.1kmの有料道路である。これに合わせて千葉国道工事事務所（当時）で建設を行ったのが一般国道409号東京湾横断道路連絡道（以下、「連絡道」という。）だ。

連絡道は延長8.6kmと短い、東京湾アクアラインと、千葉県内を走る国道16号や東関東自動車道館山線（館山自動車道）を結ぶ重要な道路である。8.6kmのうち、国で施工を行ったのは海側の木更津金田ICから、国道16号と接続する袖ヶ浦ICまでの3.9km（専用部と一般部）。袖ヶ浦IC～木更津JCTの専用部は日本道路公団（当時）が、一般部は県が施工を担当した。

寺本邦一さんは、平成元年から平成3年に調査課長として千葉国道工事事務所に勤務。東京湾アクアライン起工に合わせて連絡道も着手すべく、道路計画の説明と用地測量の了解を得るための説明会を行った。

「8地区に分けていましたからそれぞれ最低でも3回、平成元年からの2年間弱で40回ほど説明会を行いました。最初は住民の方から『1回の説明でOKが出せるわけがないだろう』と言われましたが、粘り強く繰り返し説明し、大部分はご理解いただくことができました」（寺本さん）

海に近い金田地区は特に苦労したところだ。漁業関係者も多く、既にアクアライン建設に伴い漁業補償を得ている住民もいた。だが陸上の道路建設での補償は、あくまで提供する用地に対するもの。そのあたりの違いを理解してもらうことも含め、地元に対してはきめ細かな対応とコミュニケーションが求められた。

寺本さんは平成6年から平成7年に、副所長として再び同事務所に赴任することになった。既に着工していたが、まだ用地が確保できていない部分も残っており、副所長として工務課長などと共に交渉に出向いた。

「用地がきちんと取得できないと完成時期も見えませんが、そこが最重要課題でした。残っていた相手の中には、調査課長の頃に説明会で顔を合わせたことを覚えていてくれた人もいましたね。話し合い、なんとか協力を得ることができたのです」（寺本さん）

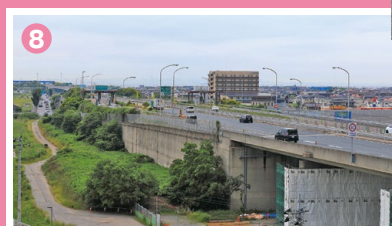


④⑤ 建設前には、調査課長として地域に説明会に回った寺本さん。海側の金田地区は、何度も交渉に足を運んだ。施工の着手はその金田地区の金田高架橋から。戸倉さんは橋脚ができていく様子に「いよいよ始まる」と感動を覚えたと振り返る



⑥⑦ 梶原さんが着任した平成7年は全線で施工が佳境に入っていた頃。小櫃川第一橋は、都市部では珍しくディビダークカンチレバー工法（ヤジロベエ工法）で施工。さまざまな工法を見ることができる、勉強になる現場だった

⑧ 小櫃川第一橋付近から東京湾アクアライン方面を望む



戸倉健司さんは平成4年から平成6年まで、工務課の設計第一係長として、連絡道建設事業に携わった。

「着任した時はちょうど連続高架橋の着工のタイミング。工事用道路は概成しており、ここに連絡道ができるという線形が見えていました。連続高架橋建設の口開けとなったのが最も海側の金田高架橋です。最初にこの高架橋の下部工事の発注を担当しました」（戸倉さん）

現場はフラットな土地で一面が田畑。周辺は民家や大きな商業施設などはほとんどなかった。「何もない空間に高架橋の橋脚が連続的に立ち上がってくる姿は感動的でしたね」と戸倉さんは当時を懐かしむ。

しかし、戸倉さんが何よりよく覚えているのは、とにかく「早く発注を!」と急がされたことだ。大手町にあった局にも、重い資料を抱えて頻繁に説明に行った。設計系の体制は2人の係長と担当者がそれぞれに3～4人もいた。それだけ多くの現場が同時に進行していたのである。

「当時は富津館山道路の建設も同時に進行しており多忙でした。木更津JCT～袖ヶ浦IC（専用部）もアクアラインの建設も着々と進んでいましたから、千葉国道担当分だけ遅れるわけにはいきません。『少しでも早く!』という緊張感がありました」（戸倉さん）

寺本さんも、「東京湾アクアラインは首都圏の交通を大きく変える、総事業費1兆4,500億円の大プロジェクトです。海の部分だけできても、連絡道で千葉県内を走る幹線道路と接続しないとその効果は発揮されません。『アク

アライン開通に間に合わせるんだ』というプレッシャーを、事務所の皆が感じていたでしょう」と語る。

寺本さんは副所長のときに、検査官として金田高架橋の完了検査を担当したという。

「金田地区は、初期には専用部を盛土で施工する計画だったのですが、地域の分断を避けてほしいと地元から要望があり、高架構造のPC橋梁に変更した経緯がありました。検査担当の人が『副所長もぜひ』と言ってきて、私も気になっていた部分をしっかりと検査しました。もちろん合格でしたよ。大プロジェクトである東京湾アクアラインに接続するので、職員も『高い品質で仕上げなければならない』という意識があったと思います」（寺本さん）

## 8.6kmの区間に さまざまな工法の橋梁を架ける

梶原竹生さんは平成7年から平成10年まで工務課に建設監督官として勤めた。千葉市内の事務所に出勤してから、袖ヶ浦市にある現場近くの建設監督官詰所まで約50kmの距離を毎日車で通い、通算で地球を1.5周したことになる。

「苦労と言えば、地元対策・対応がとて大変でした。また技術的には、PC桁の橋梁があれば箱桁の橋梁もあり、それぞれ構造も工法もさまざまでした。中には巨大なクレーンを用いたり、平地では珍しい工法を採った現場もあって、勉強になりましたね」（梶原さん）





9



10



11

9 10

JR内房線をまたぐ岩根地区の跨線部の架設には、500 tの超巨大クレーンを使用。電車の運行が終わった夜中の数時間で、桁を載せる作業が行われた

11

岩根地区、JR内房線跨線部の現場付近にて



12

12

小櫃川第二橋完成間近の冬場、川からの水蒸気で鉄鋼が濡れている状態で塗装してしまったため、塗装が剥げ落ちるという失敗も。「十分に乾かしてからやり直しました」(梶原さん)

いよいよ数年後に迫った東京湾アクアライン開通に向けて、イメージアップの一環として建設中の道路の横に「東京湾アクアライン連絡道」と、一文字ずつの巨大な看板を設置した。「東京から木更津にやってくる内房線の車内から見えるようにしました。高い建物がないから、何百m離れていてもよく見えると好評でしたよ」と梶原さん。

平成7年、8年は、多数の現場が同時に動き、いよいよ工事も佳境。さらに緊張感が漂うことになった。

「施工業者には日々の予定表を出してもらい、何がどのくらい遅れているかを目に見えるようにしました。施工業者同士の横のつながりもあるので、週1回は必ず全体での調整会議も行いました。それくらい厳しく工程管理をしないと間に合わないほどだったのです。監督官詰所にも『供用まであと何日』と、カウントダウンの掲示をして、緊張感を保つようにしていました」(梶原さん)

天候にも左右されるし、相手がある場合は調整も必要だ。予定通りには進まないこともある。3月末で梶原さんは転勤となり、4月の開通に立ち会うことはできなかったが、厳しい工程管理によって、平成9年度内に一般部の暫定供用までめどをつけることができたのである。

## 東京湾アクアラインと圏央道をつなぎ、首都圏の道路ネットワーク形成に寄与

平成9年12月18日の東京湾アクアライン開通に先駆け、平成8年3月28日に日本道路公団が施工していた連絡道

木更津JCT～袖ヶ浦ICの専用部が開通し、平成9年12月3日には千葉国道工事事務所で施工した木更津金田IC～袖ヶ浦IC(専用部)3.9kmも開通、一般部は平成10年4月に暫定供用となった。

東京湾アクアラインと連絡道の開通が千葉県、特に房総地域にもたらした効果は大きい。東京湾を半周するしかなかった京浜地区との往来が大幅に時間短縮されたことにより、房総地域で観光やレジャーを楽しむ人は増加。それだけでなく、連絡道の附属施設として袖ヶ浦市内に新設したバス停留所は、自家用車を止め、高速バスで都心と行き来するパークアンドライドの拠点として多くの人に利用され、都心が通勤圏内になったことで、居住者も着実に増えている。

かつての現場を車で走りながら「こんなところに幼稚園ができて」「住宅が増えている」と、約30年を経た風景の変わりように3人は目を見張る。

「説明会では、『木更津の発展のための道路ですからどうか協力を』と繰り返し伝えました。そのとおりに地域の発展に十分寄与しただけでなく、より広い範囲に効果をもたらしていると思います」(寺本さん)

東京湾アクアラインがその真価を発揮するためには、さらに内陸部へとつなぐ連絡道の建設は不可欠だったといえる。平成19年には木更津JCTで首都圏中央連絡自動車道(圏央道)とも接続し、広域道路ネットワークの一角を担う重要な区間として、その役割を果たしている。





# 街道時代の風景を色濃く残す 草加宿

江戸時代、東海道などの街道に  
設けられたのが宿場です。

旅人を迎え送り出した宿場の古今の様子を  
関東地方の各地に訪ねるシリーズ。  
第17回は日光街道2番目の宿、草加宿です。



歌川広重『日光道中 三 草加』  
(出典:足立区立郷土博物館  
収蔵資料データベース)



国指定名勝「草加松原」



俳聖・松尾芭蕉像

## 千住一越谷の中間宿として成立

五街道の一つである日光街道は、江戸日本橋を起点とし、  
終着地である日光東照宮とを結ぶ全長約140kmの街道です。  
街道の運用が始まった当初、日本橋の次の宿である千住から  
越谷へ向かう最短での道のりには沼地が多く、通行が困難  
だったため、迂回ルートとして現在の埼玉県八潮市方面を経  
由していたとされています。その千住一越谷間を最短距離で結  
ぶため、新たに整備・設置されたのが草加宿でした。

草加宿の成立に重要な役割を果たしたのが、宿篠葉村<sup>しゆくしのはむら</sup> (現  
在の草加市松江町)<sup>おおかわ すしよ</sup>の大川図書という人物です。慶長11  
(1606)年、図書は時の將軍徳川秀忠の命を受け、千住一越  
谷間の道路整備に着手します。彼は茅場を開き、その草木を  
用いることで沼地を埋め立て道を造りました。この新道が後の  
草加宿の基盤となるのです。その後、秀忠が鷹狩りでこの場所  
を訪れた際、「この道は草のおかげであるから」と地名を「草を  
加える=草加」と命名したとされています。

図書によって整備された草加新道は日光参詣の人々などで  
にぎわい交通量も増加しました。その影響により人馬継立が間  
に合わなくなることから、千住一越谷間の中間宿駅の設置が願  
い出されます。当時、新道沿いにはいくつかの集落が存在しまし  
たが、一村で宿場を編成できるほどの大きな村はありませんで

した。そこで幕府は複数の村で宿場を編成することを許可。結  
果的に9つの村による組合宿として草加宿が誕生しました。

その後、草加宿は寛永7(1630)年に幕府公認の伝馬宿にな  
ります。開宿当初は小規模な宿場だったものの、徐々に人口は  
増えていき、正徳3(1713)年に神明宮が建てられ五・十の六斎  
市が開かれるようになると、近郷商圈の中心として繁栄しまし  
た。天保14(1843)年の調査では本陣・脇本陣各1軒、旅籠屋  
67軒、戸数723戸で人口は3,619人との記録が残っています。

## 俳聖・芭蕉と草加の道

草加宿にゆかりのある人物として有名なのが俳人、松尾芭  
蕉です。元禄2(1689)年、当時46歳だった芭蕉は門人の曾良  
とともに江戸深川を発ち、奥羽・北陸の各地を巡る旅に出まし  
た。この時の旅の記録が、後に日本を代表する紀行文学とな  
った『おくのほそ道』です。草加はこの長い旅の最序盤で訪  
れた街でした。

草加宿について『おくのほそ道』には「呉天に白髪を恨を重  
ぬといへども 耳にふれていまだ目に見ぬ境 若生て帰らばと  
定なき頼の末を楽て 其日漸々草加と云宿にたどりて着にけり」  
とつづられています。「たとえ旅の苦しみでこの髪が白髪に変  
わろうとも、話に聞くだけでまだこの目で見たことのない土地を  
訪ねてみたい、その上で生きて帰れるのであればこれ以上の





望みはないと、あてにはならない期待をもって、この最初の日、ようやく草加の宿に到着した」。その文面からは千住からおおよそ2里8丁(8.8km)を歩いてきた1日目の疲れが見て取れると同時に、旅に対する芭蕉の強い覚悟がうかがえます。

## 蘇った宿場のシンボル「草加松原」

現在の草加宿の景観においてひととき目を引くのが、旧街道沿いにずらりと立ち並ぶ松並木です。この松並木は「おくのほそ道の風景地 草加松原」として国指定名勝にも登録されています。一説によると、天和3（1683）年の綾瀬川開削に伴い街道が整備された際に植えられたと言われているこの松は、江戸時代から日光街道の名所として知られ、街道を行き交う多くの人々を見守ってきました。

戦後、通行する車両の排気ガスの影響や、道路舗装に伴う根の切断などにより、松はその数を著しく減らしましたが、市や県をはじめとする地元の人々の精力的な保護活動のこともあり、平成24（2012）年には古木・若木合わせて634本の松並木が復活しました。

一人の男の開拓から始まり、長きにわたり人々の傍らにあり続けた草加の新道。その姿は今もなお、貴重なかつての雰囲気を与え続けています。





開削は江戸時代後期、  
古い歴史を持つ用水路

萩窪用水は、神奈川県足柄下郡箱根町から小田原市萩窪まで、10.3kmにわたる用水路です。平成18(2006)年には「全国疎水百選」に選定されました。享和2(1802)年ごろに造られたこの水路は、箱根湯本の早川を取水源とし、時代の経過に合わせて経路に新たな施設を増設しながらも、開削当時の趣は依然として残したまま現在まで保存活用されています。

萩窪地域は、箱根外輪山の尾根の山麓部に形成された小さな谷の中の土地です。萩窪用水は、水の少ない小さな谷の中にある萩窪の水田開発のために引かれた用水でした。

当時小田原藩では、天明の地震や飢饉により財政が非常に逼迫していました。そこで時の藩主であった大久保忠真(第7代小田原藩主)は、山麓部の畑を水田にすることで年貢米を増加させる施策を考えました。さらに藩では政治改革の一環として藩校「集成館」を開設して人材の

発掘育成に注力、また後に農村改革に大きな影響を与えることになる二宮金次郎（尊徳）を登用するなど、積極的な藩政を進めます。荻窪用水の工事においては、御陣屋を東海道沿いの風祭に建て、街道を行き交う大名たちにその様子を見せました。若い君主であった忠真自身の出世のきっかけにしようとしたのではないかと考えられています。実際に用水の完成した翌年には、忠真は幕府の奏者番に取り立てられ、その後、老中首座にまで上り詰めました。

## 20年にも及んだ素掘りでの開削工事

荻窪用水の工事において指揮を執った中心人物とされているのが、足柄上郡川村岸（現在の小田原市山北町）に住んでいた川口廣蔵です。酒造業を営む家庭で生まれ育った廣蔵は、地元で河川用水の工事に携わった経験から、荻窪用水の工事にも任されることになったのです。

工事は箱根外輪山を暗渠や開渠で貫くものでしたが、複雑な地形や岩盤の硬度も相まり難航を極めました。工期は約20年に及び、最終的に掘られたトンネルの数は短



# 関東の土木遺産 第54回

時代を超えて人々に恵みと潤いをもたらした

# と水用窪萩 設 施 連 関

土木学会では現存する貴重な土木構造物を調査し、「日本の近代土木遺産」として発表しています。

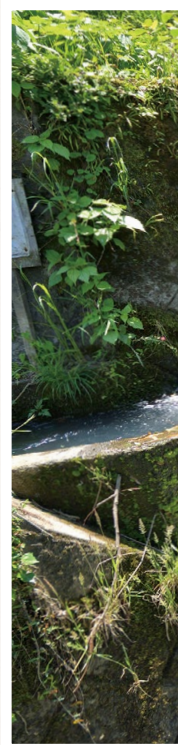


それらの土木遺産の中でも特に価値があるとされる選奨土木遺産。第54回は神奈川県小田原市・箱根町にある荻窪用水と関連施設です。

現在では唯一となった  
水路沿いの水車小屋



激しく水の流れる  
煙硝蔵堰取水口



山崎発電所と  
取水堰





いものも含めると40本を超えたとも言われています。現在でも桜田隧道をはじめとする多くの隧道は、出入り口こそコンクリートで舗装されたものもありますが、隧道内部は素掘りの姿がそのまま残っており、開削当時の雰囲気をうかがうことができます。

荻窪用水の開通後、周辺の人々は畑や水不足だった田んぼを約58町歩の豊かな水田に造り変えました。廣蔵は水路開通の功労者として称えられ、毎年藩から米5俵を与えられるようになりました。その功績は今でも荻窪の人々に伝承されており、毎年春と秋の彼岸には、代表者が山北町にある廣蔵の墓を訪れ、供養をしています。

## 時代とともに姿を変える、 用水の用途と関連施設

荻窪用水の土木遺産認定には、関連施設である山縣水道水源地や早川からの取水堰、山崎発電所なども含まれています。山縣水道水源地は、明治時代の元老山縣有朋が晩年を送った別荘、古稀庵で使用する水道のための貯水池です。明治42(1909)年に完成したこの水源の貯水量

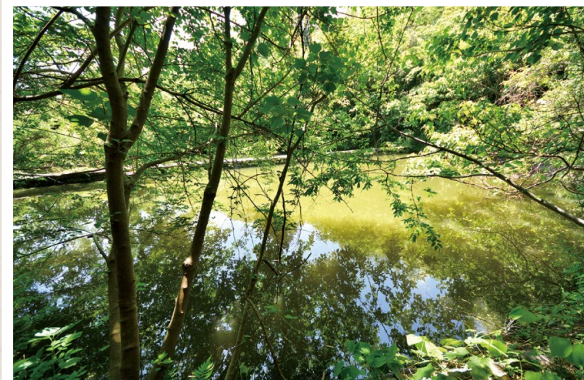
は1,300tで、1,860m先の別荘まで生活用水を送り届けました。その水は有朋自身が設計した庭園などにも活用され、後には近隣邸宅の飲料水にも用いられました。個人用水道としては大規模であり、明治時代に施工された貴重なコンクリート構造物であるとして高い評価を得ています。

取水堰および山崎発電所は、昭和11(1936)年に運転を開始。取水堰は通称ゴム堰と呼ばれるゴム引布を使用した堰で、最大で約3m<sup>3</sup>/sの水を取水します。発電所は取水堰の約2km先に設置されています。引き込んだ水を利用し、約59mの落差によって発電する水路式の水力発電所です。当時の外観がよく保全された構造物であると同時に、国際観光地箱根の発展に大きく貢献したとして、機能面でも高く評価されています。

200年以上前に開通した荻窪用水。作詞家の茶木滋による童謡『めだかの学校』の発祥地としても知られており、平成8(1996)年には水車小屋の整備された親水公園も開かれ、地元民の憩いの場となっています。用水と関連施設を巡る散策コースが市によって整備されるなど、現在でもその潤いを多くの人々に運び続けています。



山縣有朋の別荘で使われた山縣水道水源地



数多く掘られたトンネルの一つ、  
桜田隧道入口



山中を流れる  
荻窪用水、火  
山帯の性質か  
ら水には濁り  
が生じる

水之尾橋の  
荻窪用水石碑



童謡『めだかの学校』の発祥地としても有名



## 会員のひろば

このページは  
会員の皆さまの  
投稿によるページです

戸風の中のすばる 砂の中の銀河  
みんな何処へ行った……  
『プロジェクトX』風にご覧ください。

### 合計200歳での挑戦

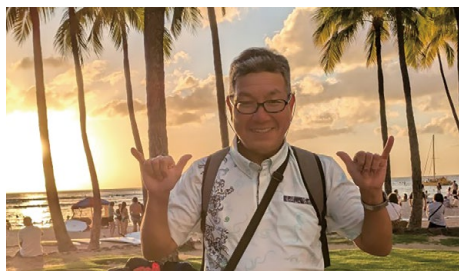
それはこの一言から始まった。  
「人生最後の望みを聞いてくれないか」  
一昨年暮れのOB会で古希前の先輩  
(T・S)から「ホノルルマラソンを一緒に走ろう」と言われた。走っても数kmの64歳には無謀な話だ。

が、隣にいた別の先輩(H・S)が「俺も人生最後、初のフルを一緒にハワイで走りたい」と言う。3人で海外? ……もちろん断った。  
※これは合計年齢200歳になる3人のオヤジの、海外マラソン挑戦物語である。



「大手町RUNらんズプロジェクトA 200aged」のロゴとプロジェクトのマスコット

# ホノルルマラソン プロジェクトA 200aged 挑戦



## 新井賢司

株式会社安藤・間 土木事業本部 顧問  
元総務部契約管理官

### プロジェクトを立ち上げる

年明け正月。家族に冗談話をした。すると「皆、健康に生きてきたご褒美だと思って走れば。親父のやりたいようにしたら」と意外な言葉だった。「簡単に言うな。この歳で海外マラソンだぞ」と返すが、お屠蘇に酔いつつ先輩の「人生最後」の一言が引っ掛かっていた。

松の内が明け、覚悟を決めた。数日後、先輩に「走れるかな」と伝えた。

激寒の真冬、3人で完遂のためのプロジェクトを立ち上げた。大会は11か月後の2024年12月8日(日)早朝5時。当日70歳+66歳+64歳の計200歳である。プロジェクト名を約40年前大手町で作ったチーム名にXではなく共通の「A」と年齢を入れ、「大手町RUNらんズプロジェクトA200aged」とした。

### 練習の日々

ミッションは、還暦すぎの老体がどうすれば無事完走できるかだが、東京からホノルルまでの総距離(約6,190km)を11か月で3人が怪我なく走破することも目標とした。

毎月1回集まりミッションを確認する。ホノルルを数回経験した先輩から「時差ボケを感じる前に走ろう。ハワイ到着翌日にレースだ。観光は後」と言われ、「えっ。かんべん」と反論した。



野口みずき氏の言葉に励まされた



ところが翌日走るツアーは意外に安く、すぐに決まった。

走力の確認のため、春先にはハーフレースに参加した。が、全身痙攣となりゴール後は数時間歩けない。倍の42kmなど無理だ。準備に最低6か月必要といわれるフルマラソン。体力強化を始めるが6月から猛暑・酷暑で走り込みをしようにもできない。残り数か月となり「やめるなら今」という言葉が頭を過る。が、全て予約済みでもう後には引けない。皆、焦った。

9月になり、ツアーセミナーで野口みずき氏（アテネ五輪マラソン金メダル）から「ホノルルは記録ではなくハワイを満喫するイベントよ。制限時間はなく歩いても9時間。ゴールは笑顔で!!」とアドバイスを受けた。不安が和らぎ考え直すきっかけとなった。

モチベーションを高めるため、合同練習を皇居で行った。昭和の時代、毎日昼休みに走ったコース。老いた身体を半蔵門や桜田門等に披露することになったが、走った後の汗は爽やかで、打上げのビールで完走できる自信が生まれ、ホノルルが楽しみになってきた。後は、感染症と怪我に注意するだけだ。

## 「出発!」……の前にも不安あり

準備は走るだけでなく、旅行の手続

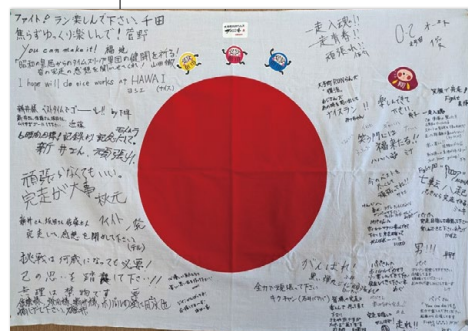
きで現実を知ることになる。1\$が160円超にもなりそうな円安。年明けから為替の動向を気にしたが、ツアーは早く予約することとした。が、手続き等（代表登録と個人登録）は全て旅行者だ。「ESTA（エスタ、米国ビザ免除プログラムに基づく電子渡航認証システム）」や「Visit Japan Web」（日本入国時の税関申告など）といった出入国申請、大会エントリー、オプションなどの予約は全てスマホにカード決済。旅行会社（JTB）から3人同時旅行のため、偽のサイト等に注意しミスしないよう言われ、連絡を取り合い慎重にスマホを扱った。時代はデジタル旅行であることを改めて思い知らされた。

11か月間1人平均1,400km、月間約130km/人、3人で約4,200km走ったが目標に届かず約7割だった。が、自信を胸に、目指す完走に向けて入国審査（英会話）、Wi-Fi、手持現金（ドル・円）、外食支払、チップなどの心配を抱えながら、寄せ書きの日の丸とともに12月7日（土）22時に出国した。

そして9時にホノルル着。

## 「ALOHA（アロハ）」

ビブス（ゼッケン）を受け取り、準備は整った——〈プロジェクトA〉。



（次号に続く）

友人知人家族からの応援の  
寄せ書きとともに出国!



（左）佐藤利彦氏（T・S／元総務部 契約管理官）

（右）坂田弘氏（H・S／元総務部 財産管理官）

※本人は中央



# 令和7年度 公益事業紹介

## 関東地域づくり協会からのお知らせ

令和7年3月17日(月)公益事業委員会(外部委員2名含む)において、  
令和7年度の公益助成事業の申請80件が審議され、75件が採択されました。

### 地域活性化

全11件

人口減少、少子高齢化が進む社会の中で衰退している地域社会において、環境保全や観光、文化、歴史、自然等の地域資源を活用する事業への支援を通じて、地域づくり、地域活性化に寄与することを目的とした事業。

#### 事業名

- 棚田・里山再生支援による地域の活性化
- 利根川における上下流連携と地域振興支援
- 市民地域活性化活動への支援 ほか



埼玉県横瀬町棚田再生

### 調査研究・技術開発

全7件

大学・団体・企業等を対象に技術開発研究費用の一部を支援するとともに、社会資本の記録・整理・整備に関する研究活動への支援を行うなど、広く社会資本の整備の推進に寄与することを目的とした事業。

#### 事業名

- 道路、河川等の土木技術の継承
- 大学等調査研究テーマに対する支援
- 河川流域水質一斉調査支援 ほか



土木技術の継承  
事例集作成のための編集会議

### 防災

全9件

災害時に防災エキスパートおよび当会職員等による災害対応支援活動および平常時の防災のための公共施設点検、防災意識の向上、啓発等の広報活動支援を通じて、災害時の迅速かつ的確な対応に寄与することを目的とした事業。

#### 事業名

- 防災エキスパート支援事業
- 災害復旧事業技術講習会
- 防災倉庫・防災備蓄用品の助成 ほか



災害復旧事業技術講習会

### 講演会等

全11件

河川や道路等の社会資本の整備が防災、治水、利水、物流、観光など地域社会や経済等に果たしている役割等について講演会やセミナーの開催、優良な工事に対する表彰等を通じ、広く理解を深められることを目的とした事業。

#### 事業名

- 有識者による社会資本、防災等「地域づくり講演会」の開催
- 地域プロジェクト講演会等への支援 ほか



関東地域づくり講演会

### 環境保全

全25件

関東地域内に残る自然環境の調査、保護、再生に取り組む活動への支援、河川や道路等の社会資本を清掃・美化する活動への支援、地域の自然に興味を促すことで環境愛護の精神を育む活動への支援を通して、地域に貢献することを目的とした事業。

#### 事業名

- 関東・水と緑のネットワーク形成プロジェクト
- 河川・道路清掃等美化活動支援
- 貴重植物保全活動支援 ほか



体験植樹および植樹地の整備  
(日光市足尾町)

### 広報

全12件

河川や道路等の社会資本の役割や重要性などについて、展示会・HP等で広く報じることにより、地域住民等の社会資本への理解が深められることを目的とした事業。

#### 事業名

- 道のある風景写真コンクール
- 中学生体験学習(校倉風木造倉庫建設・測量体験・重機操作体験 ほか)



道のある風景写真コンクール  
入賞作品展示(道の駅いちかわ)



新会員をご紹介します

新しく40の方が入会されました。これからよろしくお願いいたします。

| 氏名    | 現勤務先               |
|-------|--------------------|
| 青木 光司 | 関東建設マネジメント(株)      |
| 畦地 拓也 | (一社)関東地域づくり協会      |
| 阿部 稔  | (株)オオバ             |
| 荒木 茂  | (公財)リバーフロント研究所     |
| 安蒜 実  | 関東建設マネジメント(株)      |
| 石倉 丈士 | 君津市役所              |
| 伊藤 善裕 | 日本ユーティリティサブウェイ(株)  |
| 岩崎 和夫 | 五洋建設(株)            |
| 内堀寿美男 |                    |
| 太田 孝二 | (一社)日本道路建設業協会      |
| 小櫃 基住 | (一社)日本建設機械施工協会     |
| 海津 義和 | (公財)河川財団           |
| 片山 義治 | (一財)日本建設情報総合センター   |
| 金森 正博 | 関東建設マネジメント(株)      |
| 亀井 義弘 | (一社)全国土木施工管理技士会連合会 |
| 木村 佳夫 | (一社)日本建設機械施工協会     |
| 棚澤 義一 | (株)アイ・ディー・エー       |
| 黒岩 久一 | (一財)全国建設研修センター     |
| 小島 宏一 | (株)アイ・ディー・エー       |
| 櫻井 真一 | セントラルコンサルタント(株)    |

| 氏名    | 現勤務先               |
|-------|--------------------|
| 佐々木智之 | 八千代エンジニアリング(株)     |
| 菅原 宣治 | (一財)河川情報センター       |
| 須藤 純一 | (一財)水源地環境センター      |
| 関谷 光昭 | (一社)関東地域づくり協会      |
| 高津 秀一 | (一財)橋梁調査会          |
| 高橋 晃浩 | 大日コンサルタント(株)       |
| 武内 康彦 | 日本ユーティリティサブウェイ(株)  |
| 田所百年裕 | 共和コンクリート工業(株)      |
| 中島 淳  | (一社)河川ポンプ施設技術協会    |
| 長島 一光 | (一社)関東地域づくり協会      |
| 中野 昌一 | (一財)先端建設技術センター     |
| 中嶋 正幸 | (株)浅沼組             |
| 平本 和寿 | (株)近代設計            |
| 丸山 徳彦 | 関東建設マネジメント(株)      |
| 丸山 昌宏 | 関東建設マネジメント(株)      |
| 水川 靖男 | 佐藤工業(株)            |
| 宮川 隆巳 | (一社)関東地域づくり協会      |
| 矢嶋 淳史 | 関東建設マネジメント(株)      |
| 吉田 幸男 |                    |
| 佐藤 亮一 | (公財)神奈川県都市整備技術センター |

お悔やみ申し上げます

謹んで哀悼の意を表します。

| 氏名    | 逝去年月    | 建設省(現国土交通省)退職時職名 |
|-------|---------|------------------|
| 小口 安雄 | 令和6年9月  | 北首都国道 事務所長       |
| 岡田 収三 | 令和6年10月 | 川崎国道 副所長         |
| 上平 幸雄 | 令和6年12月 | 利根川上流 副所長        |
| 西野 健二 | 令和6年12月 | 甲府 係員            |

| 氏名    | 逝去年月   | 建設省(現国土交通省)退職時職名 |
|-------|--------|------------------|
| 芳賀 稔  | 令和7年1月 | 関東地建 建設専門官       |
| 大澤登志雄 | 令和7年2月 | 高崎 出張所長          |
| 野村 和正 | 令和7年3月 | 長野県 土木部長         |

編集委員

●

[関東地域づくり協会]

有馬正吾

大柴公彦

澤田晋

高橋岩夫

辰野剛志

丸山貴志

[会員]

浅古勝久((株)熊谷組)

吉田成人(いであ(株))

先日、久しぶりに結婚式・披露宴に参列しました。私たちの時代とはずいぶん様変わりしたものでした。結婚式は、結納なし、仲人はたずず、職場の上司や同僚もほとんど呼ばない。場所は教会ですが、人前式で神父さんもない。親族や友人たちが一同に参列。ジャケットセレモニー？ ローズセレモニー？ 新郎のブーケトス？ など初見の催しばかり。披露宴も上司や友人などのあいさつは最低限で、座席表も個人情報の観点からか勤め先や肩書きなどの記載はなく、親族、上司、同僚、友人など最低限の肩書きの記載のみ。余興もなし。新郎新婦は、時間の許す限りそれぞれの参列者と語らい、それが映像に取められる。結びは、当日つい先ほどのまでの出来事が全て編集され、エンドロールに映像で流れるのです。一日中驚くことばかりでした。

久しぶりに20代の若者たちと語らう機会は、とても有意義なものでした。昨今は1度や2度の転職は当たり前、むしろステップアップ、終身雇用・年功序列的な思考はあまりないようです。改めて最近の若者の感覚を実感しました。

ただ花嫁の父の涙は、昔も今も変わらずに皆に感動を与えていました。

(編集委員 S・A)

編集委員会だより

一般社団法人 関東地域づくり協会  
 Kanto Regional Management Service Association

令和7年7月

19



# 関東の道の駅

## 広大な公園が併設！ 広域防災拠点として 一層の充実を目指す



道の駅  
「みぶ」



道の駅「みぶ」ハイウェイオアシスエリア。「シルバニアファミリー」の看板が迎えてくれる

栃木県下都賀郡壬生町の中央に位置する道の駅「みぶ」は平成21年7月31日に開業。令和3年6月に防災道の駅に選ばれました。敷地に壬生町総合公園やとちぎわんぱく公園なども含む、日本一の広さを誇る道の駅です。

### 魅力アップのためのリニューアルが進行中

道の駅「みぶ」は県道71号に面し、北関東自動車道の壬生PAとも連結する、高速道路と一般道の両方からアクセス可能なハイウェイオアシスです。

「みぶ」は高速道路・一般道の休憩所である「みぶハイウェイパーク」に加え、県道を挟んで位置する広大な公園と併せて構成されています。全体の広さは東京ドーム11個分。「圧倒的に高速道路からの利用者が多く、PAに車を止め、県道を渡って公園へ行く人も多いです」と話すのは、株式会社La chic mibu（らしゅくみぶ）の出井透代表取締役社長。同社は町などの出資による第三セクターで、令和7年4月から管理運営を行っています。

さらなる利用者増を目指し、「みぶ」では現在もリニューアルが進められています（令和7年度末に完成予定）。リニューアルのキーワードは、「おもちゃ」と「いちご」。壬生町には戦後から東京の下町に本社を置く玩具メーカーが工場を構え、「おもちゃのまち」という工場団地が形成されてきた縁から、リニューアルの目玉の一つとして玩具メーカーの人気商品をモチーフにした看板や店舗を設置。訪れる人の目を楽しませています。また、県内でも全市町村中第4位

を誇る「いちご」の生産地、壬生町ならではの商品開発も進行中。「通過地点ではなく“目的地”としての魅力を高めていきたい」と出井社長。一般道からのお客さまを増やしていくことが課題だと話します。

### 高速道路からの好アクセスで防災拠点として機能

「みぶ」が「防災道の駅」に選定された大きな理由は、北関東自動車道を利用して遠方から支援に来る自衛隊や消防、警察などの車両の受け入れに迅速に対応でき、広域支援活動の拠点、支援物資集積拠点としての利用が可能である点です。現在は高速道路から県道を越えて公園側へと乗り入れできるスマートICも整備中で、それが完成すれば利便性はさらに向上します。また壬生町総合公園は地域の人々の避難所にも指定されています。

この4月に「みぶハイウェイパーク」に新設された広々としたトイレ棟は、きれいで快適なだけでなく、災害に備えたレジリエンストイレ（通常より少量の水で洗浄できる）を男性用・女性用にそれぞれ4器設置。関東地域づくり協会から助成金の交付を得て、防災倉庫も4棟整備しました。

地域の人々の生活に寄り添い、非常時には県内外の広域を支援するための中心地となる、頼もしい道の駅です。

県道を挟んで位置する壬生町総合公園と壬生町おもちゃ博物館、県が運営するとちぎわんぱく公園も道の駅の敷地に含まれる



株式会社La chic mibuの出井透代表取締役社長。もとは町職員で、この数年、道の駅リニューアル計画に携わってきた

今年4月に完成したトイレ棟。断水時には少量の水で洗浄できるレジリエンストイレも設置



ハイウェイパークの北側がスマートICの整備予定地だ（令和10年度に完成予定）

いちごと並びトマトも壬生町の特産。味の濃いトマトを求めてやってくる人も多い



令和5年度、6年度に関東地域づくり協会からの助成金を得て防災倉庫を設置した



エポック社の看板商品「シルバニアファミリー」の道の駅「みぶ」オリジナルモニュメントは人気のフォトスポット